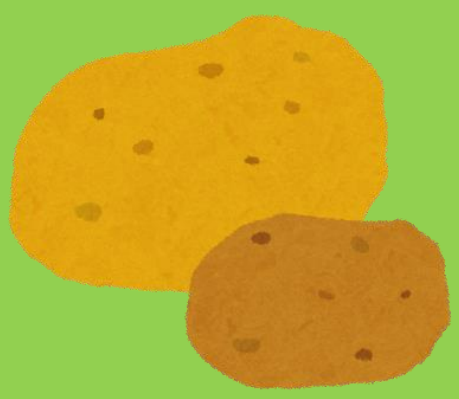
2020年度

福岡県

飯塚市庄内生活体験学校

幼児の野外生活体験活動支援

プログラムガイド



目　次

支援活動の始まり …… 1

プログラムの発見と拡大 …… 5

園ごとの活動展開例 …… 9

活動ごとの留意点 …… 13

利用申請書の記入例 …… 17

職員一覧 …… 21

この冊子は、幼児の野外における生活体験活動を支援する手引書として作りました。

飯塚市庄内生活体験学校が支援活動を始めて 4 年しか経過していませんが、現在までに分かってきた取り組みの要点をまとめてあります。活動の計画作りに役立てていただければ幸いです。発行者は、特定非営利活動法人 体験教育研究会ドングリです。

支援活動の始まり

2017(平成 29)年 6 月 15 日、福岡県飯塚市内の私立保育園々長会議と私立幼稚園々長会議において、飯塚市庄内生活体験学校(以下、生活体験学校と略記)が、保育園・保育所・幼稚園・認定こども園(以下、園と略記)の野外における生活体験活動支援を開始する旨の態度表明を行ったのが始まりでした。この取り組みを行政と連携して進めるため、飯塚市教育委員会生涯学習課々長補佐の同席をお願いしました。

活動を開始した背景

生活体験学校は、1988(昭和 63)年度に開設し、1989(平成元)年 4 月から小学生を対象に 6 泊 7 日の通学合宿を始めました。開設当時から平日昼間の利用が全くない状態が長年続いていました。平日昼間の利用可能性があるのは、園にいる幼児だけです。幼児を対象に平日昼間の活用を図る必要がありました。活動開始の背景の一つは、生活体験学校運営上の必要でした。

背景の二つ目は、体験活動の効果です。生活体験プログラムの対象者は年齢を下げていくことが体験の効果をあげる活動の基本です。小学生を主体にした現状から対象者を中学生にまで広げるのではなく、幼児を対象者に加えていくことが効果的です。そういう研究者の指摘もありますし、実践者の体験を通した感触でも同様なことが分かっています。また、通学合宿対象者の過去の全国調査では、小学 5・6 年生が圧倒的に多く、3 年生以下を対象にする事例は少数です。低学年の指導法が難しいために高学年対象の通学合宿が多くなっているものと思われますが、低学年の児童や就学前の幼児を対象にした指導法を確立し、関係者が方法を習得すれば、事業対象者を下に向けて広げて実施することはできます。

支援活動の類型

活動を類型ごとに分けてみますと、小学生対象の活動として生活体験学校が蓄積してきた活動内容に少し手を加えて幼児に提供する内容と、新たに幼児向けの活動内容として準備し提供する内容に分けられます。前者の例としては、サツマイモ掘りがあります。サツマイモの栽培は、生活体験学校において長く続けてきた活動で、新しく始めた活動ではありません。この他に、生活体験学校で長く続けてきた活動として、玉ねぎ・ジャガイモ・里芋・落花生の栽培があります。園の活動として一般的に多く取り組まれているのは、サツマイモの栽培ですが、園によって様々な仕方で行われています。自園の敷地内菜園での栽培あり、近隣の借地での栽培あり、栽培をまるごと委託して収穫体験だけという具合です。幼児向けの活動内容として、新たに準備する後者の場合は、保育士や幼稚園教諭(以下、保育者と略記)の要望に応える形で工夫する場合や幼児の活動の様子観察から発想する場合があります。

加えて、生活体験学校での長年の活動蓄積から発想した活動で、一般に同様の呼び名で行われている活動とは少し趣を異にした型の活動もあります。総合的な体験活動支援としてお泊り保育が 2 事例あります。ヤギ・ウサギの展示は、生活体験学校で行う場合は主に餌やり体験です。エサやり体験は、他の体験活動と組み合わせて行うことが多くなります。例えば、サツマイモ掘りをしながら、芋づるや葉を餌として与える活動というような組み合わせです。この体験は、あらゆる体験活動と並行して行われる活動で、生活体験学校に来た場合はどの園も行います。

工夫した活動メニュー

活動メニュー	工夫した点等
シイタケのコマ打ち	生活体験学校が長年取り組んできたドングリの播種（種まき）・育苗・定植という一連の活動への部分参加です。20 年前から育ててきたクヌギを伐採しホダ木にして、これにドリルで穴をあけシイタケ菌を打ち込む体験です。ホダ木の穿孔は見学のみ、コマ打ちは幼児が木槌を使って菌を打ち込みます。
ピザ焼き	2008（平成 20）年度に耐火レンガを購入して手作りしたピザ窯で行います。燃料は薪を使い、火加減が難しい活動です。幼児が実施する場合は、生地を成型し、トッピングのみを行います。ピザ生地とソースは生活体験学校の職員が準備し、トッピング（カット済み）は園の側で用意します。学年に応じて作業工程を変えることができます。
落ち葉プール	幼児向けに準備したメニューです。生活体験学校において、落ち葉は畑に入れて野菜作りの効果をねらう程度の必要しか感じておりませんでした。隣接する公園のクヌギの葉を集めて園児に提供してみて初めて落ち葉が遊具になることを知りました。幼児が踏んで砕いたクヌギの葉は、畑に投入して耕運機ですき込みます。落ち葉拾いは合宿体験に参加した小学生の楽しい作業課題になっていて、喜んで参加しています。
竹まきパン作り	パン生地を油抜きした竹に巻き付けて焼きます。幼児は粘土工作のように生地を伸ばし、巻き付ける工程を体験します。レンガでかまどを作って火を燃やします。火をかざして行うパン焼きが楽しい様子です。学年によっては自分のパンを焼く工程も体験できます。
ヤギ・ウサギ移動展示	軽トラックに積んで園まで運びます。最も多いのは、小学校 1 年生の生活科の授業で観察するための依頼です。エサは給食が自校式のところでは、野菜くずを貯めてもらい、餌としています。
里芋洗い体験	里芋収穫とセットで行う活動です。かつては珍しくない作業でしたが、親芋から子芋を外し、水を張ったバケツに入れてイモ洗い棒を回して皮をむく作業です。3 歳児ではリズムをつかむまで時間がかかりますが、覚えてしまえば十分な体験活動になっています。
ヒノキ板のそうめん流し	一般には孟宗竹で流し部分を作りますが、1 年しか使えません。2 年 3 年と使えるものをと流し板をヒノキで作りました。水やそうめんの流れ具合を確かめながら作りました。組み立て方によっては、直線にも直角にもできますので様々な楽しみ方ができます。

人気沸騰、石焼きイモ作りとイモ釜誕生

石焼きイモ作りは、令和 2 年度に 11 回取り組まれました。人気沸騰の感があります。石焼きイモ釜は園に運び込んで園庭で焼く場合と園児が生活体験学校にやってきて焼いたイモを会食する場合があります。石焼きイモ釜を使った石焼きイモ作りは、早くから生活体験学校で行われていた活動ではありません。一つの偶然から始まります。それは、倉庫に眠っていた鋳物製の簡易かまどの発見でした。今ではホームセンターにも売っていない鋳物でできた簡易かまど 2 基を使って小型の石焼きイモ釜を製作したのは、平成 29 年 1 月 8 日でした。かまどの上部にあり合わせの大鍋をのせて、鍋底にホームセンターで買ってきた玉石（庭に敷く砂利）を並べて焼いたら大変美味しかったという発見から始まります。面白がって石焼きイモの試し焼きを続けるうちに、同年 11 月 10 日に新しいドラム缶を加工して大型の石焼きイモ釜 2 基を作りました。

最初に釜を使ってくれたのは愛宕幼稚園でした。園庭にイモ釜を持ち込んで生活体験学校職員が出かけて焼きました。大成功でした。この年、愛宕幼稚園の他に 2 つの園が使ってくれました。次の年も 3 園が、その次の年も 3 園がイモ釜を使ってくれました。3 年間の試行で園が石焼きイモ作りを歓迎していることが分かりました。愛宕幼稚園は、職員の中に野外炊飯の経験豊富な方がおられて、釜を借りて自園の園庭で自分たちだけで石焼き芋ができます。「どの園も芋掘りまでは取り組んでいても、掘った芋を美味しく焼くことまではやれていない」ということが一人の園長さんの話から分かりました。

そして、初めに書きましたように、令和 2 年度 12 月にいたって、合わせて 11 回の石焼きイモ体験が取り組まれたというわけです。これには、令和 2 年 11 月 18 日に 3 基目のイモ釜を製作して、これを使用したことが貢献しています。

バスの配車予算の効果が大きかった

園が生活体験学校を利用したいという場合に、幼児の輸送手段がネックになって実施できないことがあります。送迎バスを持っている幼稚園などを除いて、保育所の多くが幼児の輸送手段を持ちません。この困難を解消するため、令和元年度飯塚市予算においてバス代が措置され、その結果、4 つの園がバスを 7 回利用して生活体験学校にやってきました。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染防止の影響で予定通りにはいきませんでしたが、6 園（6 台）のバス配車が実現しました。（12 月 2 日現在）6 園のうち 3 園は初めての生活体験学校利用でした。園児がバスを利用して、初めて生活体験学校にやってきたことは、引率にあたった保育者の生活体験学校に対する認識を深める大きなきっか

けになりました。また、バス利用が可能だったにも関わらず、新型コロナウイルス感性防止のため、生活体験学校訪問を諦めた園が、出前講座を申し込んで園庭での石焼きイモ作りを実施するなど、バスの予算措置が園と生活体験学校を結び付けた見えない効果もありました、令和３年度は、園と生活体験学校の間がより一層近いものになることが期待されます。

【施設利用】

日時	施設名	学年	幼児	教員他	プログラム
6. 5	愛宕幼稚園	5歳	89	6	玉ねぎ収穫、動物ふれあい
7. 8	おひさま	全員	4	6	動物ふれあい
8. 6	おひさま	全員	5	6	動物ふれあい、ミニトマト収穫
9. 4	おひさま	全員	6	6	クリ拾い
10.20	愛宕幼稚園	3歳	82	8	サツマイモ観察、動物ふれあい
10.24	愛宕幼稚園	親子	13	21	サツマイモ・里芋収穫、落ち葉
10.27	聖母幼稚園	4歳	55	7	落花生収穫、落ち葉、動物
10.28	おひさま	全員	4	9	サツマイモ掘り、石焼き芋
11.17	愛宕幼稚園	3歳	82	7	サツマイモ収穫、動物、落ち葉
11.20	ひばり保育園	5歳	21	6	動物ふれあい
11.23	保育者体験講座		9	12.	サツマイモ収穫、石焼芋

【施設利用
（バス利用分）】

日時	施設名	学年	幼児	教員	プログラム
6.23	庄内保育園		39	7	ジャガイモ収穫、昼食
10.13	あさひ保育園	5歳	24	4	サツマイモ収穫、昼食
11.10	明星保育園	5歳	33	4	サツマイモ収穫
11.26	常葉保育園	4-5歳	36	6	石焼き芋、動物ふれあい 玉ねぎ植付
11.27	常楽寺保育園	5歳	22	3	石焼き芋、動物ふれあい
12. 2	平恒保育所	5歳	12.	3	サツマイモ収穫、石焼き芋

【出前講座】

日時	施設名	学年	幼児	教員	プログラム
5.21	庄内こども園	年長	38	4	サツマイモ植付準備
11. 9	ひばり保育園	全	100	3	石焼き芋出前講座
11.11	聖母幼稚園	全員	197	15	石焼き芋出前講座
11.17	庄内保育園	全	60	20	石焼き芋出前講座
11.18	愛宕幼稚園	全	89	8	石焼き芋釜貸出
12. 1	明星保育園	全	98	8	石焼き芋出前講座
12. 4	庄内こども園	全員	150	23	石焼き芋出前講座
12. 9	菰田保育所	全員	140	60	石焼き芋出前講座

プログラムの発見と拡大

1. サツマイモ掘り（苗植え・観察を含めて）

平成 29 年 11. 1	愛の光保育園（年長組）が徒歩でイモ掘り体験
11.15	愛宕幼稚園（年中組）・・・収穫体験
平成 30 年 6.21	愛宕幼稚園・・・ 園児 88 名 苗植え体験
9. 5	愛宕幼稚園・・・ 園児 88 名 サツマイモ苗観察
11.13	愛宕幼稚園・・・ 園児 88 名 収穫体験
11.20	愛の光保育園・・・ 園児 24 名 イモ掘り体験
令和元年 9. 5	愛宕幼稚園・・・ 園児 81 名・職員 8 名 観察
11.15	愛宕幼稚園・・・ 園児 81 名・職員 8 名 収穫体験
11.27	愛の光保育園・・・ 園児 19 名・職員 3 名 収穫体験
12. 3	平恒保育所・・・ 園児 19 名・職員 3 名 収穫体験
令和 2 年 10.13	あさひ保育園・・・ 園児 24 名・職員 4 名 収穫体験
10.20	愛宕幼稚園・・・ 園児 82 名・職員 7 名 サツマイモ観察
10.24	愛宕幼稚園親子活動・・・ 園児 13 名・保護者＆職員 21 名 収穫体験
10.28	おひさま・・・ 園児 4 名・職員 9 名 収穫体験
11.10	明星保育園・・・ 園児 33 名・職員 9 名 収穫体験
11.17	愛宕幼稚園・・・ 園児 82 名・職員 7 名 収穫体験
11.23	保育者体験講座・・・ 園児 9 名・保育士 12 名 収穫体験
12. 2	平恒保育所・・・ 園児 12 名・職員 3 名 収穫体験

2. 石焼きイモ（釜の制作を含めて）

平成 29 年 1. 8	鋳物製の簡易かまどで小型石焼きイモ釜 2 基製作
11.10	新品ドラム缶を加工して大型石焼きイモ釜 2 基製作
平成 29 年 11.21	愛宕幼稚園々庭に石焼きイモ釜 2 基で出前講座
12. 5	庄内こども園に出前講座
12.15	筑穂保育所に出前講座
平成 30 年 11. 8	平恒保育所・・・ 園児 60 名 出前講座
12. 1	愛宕幼稚園親子活動・・・ 親子 48 名 石焼きイモ体験
12. 4	ひまわり幼稚園・・・ 園児 96 名 石焼きイモ体験
令和元年 11.13	庄内保育園・・・ 出前講座 ※120 個以上焼く
11.18	ひまわり幼稚園・・・ 園児 45 名・職員 6 名 石焼きイモ体験
11.26	常葉保育園・・・ 園児 53 名・職員 6 名 石焼きイモ体験
令和 2 年 10.28	おひさま・・・ 園児 4 名・職員 9 名 石焼きイモ体験
11. 9	ひばり保育園・・・ 園児 100 名 出前講座
11.11	聖母幼稚園・・・ 園児 197 名 出前講座
11.17	庄内保育園・・・ 園児 60 名 出前講座
11.23	保育者体験講座・・・ 園児 9 名・保育士 12 名
11.26	常葉保育園・・・ 園児 36 名・職員 6 名 石焼きイモ体験
11.27	常楽寺保育園・・・ 園児22名 職員3名
12. 1	明星保育園・・・ 園児 98 名・職員 8 名
12. 2	平恒保育所・・・ 園児 12 名・職員 3 名
12. 4	庄内こども園・・・ 園児 150 名・職員 35 名
12. 9	菰田保育所・・・ 園児 122 名・職員 60 名

3. 玉ねぎ収穫(苗植えを含めて)

平成 30 年 5.21	庄内保育園･･･ 園児 38 名
5.22	愛宕幼稚園･･･ 園児 86 名
5.25	愛の光保育園･･･ 園児 21 名
11.27	愛宕幼稚園･･･ 園児 83 名 玉ねぎの苗植え
12. 1	愛宕幼稚園親子活動･･･ 親子 48 名 玉ねぎの苗植え
令和元年 5.24	愛宕幼稚園･･･ 園児 83 名 職員 9 名
5.27	ひまわり幼稚園･･･ 園児 45 名 職員 5 名
5.30	愛の光保育園･･･ 園児 19 名 職員 4 名
令和 2 年 6. 5	愛宕幼稚園･･･ 園児 89 名 職員 6 名
11.26	常葉保育園･･･ 園児 36 名 職員 6 名 玉ねぎの苗植え

4. ジャガイモ掘り

平成 30 年 5.25	愛の光保育園･･･ 園児 21 名
令和元年 5.28	庄内保育園･･･ 園児 40 名 職員 6 名
6.12	愛宕幼稚園･･･ 園児 81 名 職員 9 名
7. 4	庄内こども園･･･ 園児 38 名 職員 9 名
令和 2 年 6.23	庄内保育園･･･ 園児 39 名 職員 7 名

5. 落花生掘り

平成 30 年 11.3	愛宕幼稚園親子活動･･･ 親子 34 名
11.20	愛の光保育園･･･ 園児 24 名
令和元年 10.23	聖母幼稚園･･･ 園児 49 名 職員 6 名
10.29	庄内こども園･･･ 園児 35 名 職員 6 名
令和 2 年 10.27	聖母幼稚園･･･ 園児 55 名 職員 7 名
10.28	おひさま･･･ 園児 4 名 職員 5 名

6. 里芋の皮むき～イモ洗い棒を使って～

令和元年 10.16	イモ洗い棒 4 本完成
10.18	庄内こども園(年中組)31 名
	(イモ洗い棒 4 本使って里芋の皮むきを初めて実施)
11.18	ひまわり幼稚園(年中組)45 名
11.26	常葉保育園･･･ 園児 53 名、職員 6 名
令和 2 年 10.24	愛宕幼稚園親子活動･･･ 園児 13 名 保護者･職員 21 名
11.17	愛宕幼稚園･･･ 園児 82 名 職員 7 名

7. シイタケのコマ打ち

平成 30 年 2.15	愛宕幼稚園(年中組)
2.23	愛の光保育園･･･ コマ打ち出前講座
平成 31 年 2. 5	愛宕幼稚園･･･ 園児 83 名
2.27	愛の光保育園･･･ 園児 21 名
3. 5	庄内保育園･･･ 園児 38 名
令和 2 年 2.20	愛の光保育園･･･ 園児 19 名 職員 3 名
2.20	庄内保育園･･･ 園児 40 名 職員 6 名

8. ピザ焼き体験

平成 29 年 10.22	ピザ焼き体験会（愛宕幼稚園　職員 8 名　子ども 6 名）
平成 30 年 11.　3	愛宕幼稚園親子活動･･･　親子 34 名
令和元年 11.　2	愛宕幼稚園親子活動･･･　園児 15 名　保護者 15 名
令和 2 年　2.12	庄内保育園･･･　園児 40 名　職員 6 名
11.20	ひばり保育園･･･　園児 40 名　職員 6 名

9. そうめん流し(総ヒノキ作りの流し板)

平成 30 年　4.29	そうめん流し板 2 セット目を作る
平成 30 年度	全 16 回
	頴田交流センター　2 回　　庄内保育園　1 回
	筑穂交流センター　4 回　　はくりゅう園　1 回
	日曜日を楽しむ会　1 回　　明星サロン　1 回
	庄内子育て支援センター　1 回
	飯塚片島交流センター　1 回
	菰田交流センター　1 回
	愛宕幼稚園　1 回
	花咲台自治会　1 回
令和元年度	明星寺団地自治会　1 回
	全 19 回
令和 2 年度	筑穂交流センターに 2 セット長期貸し出し
	新型コロナ感染防止のため貸出件数　0 回

10. 落ち葉プール

平成 30 年　2.23	愛宕幼稚園「わくわくさん」25 家族 77 名　職員 4 名
平成 31 年　2.20	ひまわり幼稚園(年少)59 名(毎日･朝日･NHK の 3 社の取材を受ける)
令和元年 10.29	庄内こども園(年中)･･･　園児 37 名　職員 6 名
10.29	いぎすれんげ幼稚園･･･　園児 35 名　職員 5 名
11.15	愛宕幼稚園(年少)･･･　園児 80 名　職員 6 名(新しい落ち葉で実施)
11.26	常葉保育園･･･　園児 53 名　職員 6 名(新しい落ち葉で実施)
令和 2 年 10.24	愛宕幼稚園親子活動･･･　園児 13 名　保護者･職員 21 名
11.10	明星保育園･･･　園児 33 名　職員 4 名
11.20	ひばり保育園･･･　園児 21 名　職員 6 名
11.26	常葉保育園･･･　園児 36 名　職員 21 名
11.27	常楽寺保育園･･･　園児 22 名　職員 3 名

11. ヤギ･ウサギの移動展示

平成 29 年　9.14	庄内こども園･･･　ヤギの移動展示
12.22	筑穂保育所
平成 30 年 11.　8	平恒保育所･･･　園児 60 名
11.21	庄内こども園･･･　園児 154 名
平成 31 年 3.　5	庄内保育園･･･　園児 38 名
令和元年　8.　5	常葉保育園･･･　59 名

12. 竹まきパン作り

平成 31 年　2.23	愛宕幼稚園･･･　親子 77 名

13. お泊り保育

平成 30 年　7.19 令和元年　7.26	ひまわり幼稚園･･･　園児 65 名（～20 日） 聖母幼稚園･･･　園児 49 名　職員 6 名（～27 日）

14. 菜園養生

令和 2 年 10.27 10.29	山内こども園　※牛糞堆肥 9 俵･苦土石灰 10 ㌔ 玉ねぎ苗　200 本定植

園ごとの活動展開例

園の規模の大小によって、活動はどのように違ってくるのか。
収穫する、収穫しないによって、活動の仕方はどのように違ってくるのか。
園ごとの時間配分なども紹介しますので参考にしてください。

クリムゾンクローバーの畑にならんだ園児たち
「赤いクローバ」と呼ばれる牧草で、アメリカ産、緑肥用、6月に開花します。生活体験学校ではヤギ、ウサギが好んで食べます。背景のトタン屋根は大屋根と呼んでいる職員手作りの屋根で、雨天干天時の作業場です。

1. 愛宕幼稚園　～規模の大きい園の芋ほり～

【日　　時】　令和２年 11 月 17 日(土)
【利用人数】　園児　82 名　職員　８名
【移動手段】　自園バス利用
【タイムスケジュール】

10:30	生活体験学校到着
10:40	朝のあいさつ･説明
	活動
	①　サツマイモ収穫
	②　動物ふれあい
	③　里芋のイモ洗い体験
11:40	帰りのあいさつ
11:50	出発

【活動のポイント】
○　人数が多いので、クラスごとに3つの領域(活動)に分かれて活動を行う。
○　スコップは使わずに、軍手をして１人２本掘った。職員が予めツル切りと掘りやすいようにスコップで土をほぐした。

【生活体験学校職員】　館長･原･矢野･津山･河中･谷

2. あさひ保育園　～規模の小さい園の芋ほり～

【日　　時】　令和２年 10 月 13 日(火)
【利用人数】　園児　24 名　職員　４名
【移動手段】　配車バスを利用
【タイムスケジュール】

10:00	生活体験学校　到着
10:10	朝のあいさつ･説明
	活動①　サツマイモ収穫
	活動②　落花生収穫
11:30	活動③　昼食(弁当)
12:00	出発

【活動のポイント】
○　人数は 20 名程度なので、活動時間に余裕ができれば、前準備をしない活動を急遽取り入れることができる.
○　ベランダで食事をとることで、身体的距離をとることができる。

【生活体験学校職員】　館長･原･津山･正平･河中･谷

3. 聖母幼稚園　～落花生収穫～

【日　　時】　令和２年10月27日(火)
【利用人数】　園児　55名　職員　７名
【移動手段】　自園のバスを利用(送迎できる人数が少ないのでピストン対応)
【タイムスケジュール】

11:00	先発:生活体験学校　到着 活動①　落花生収穫 活動②　動物ふれあい	11:20	後発:生活体験学校　到着 活動①　動物ふれあい 活動②　落花生収穫
12:00	昼食	12:20	昼食
12:50	出発	13:10	出発

【活動のポイント】
○　送迎バスの関係で、時間の配分に工夫が必要だった。動物のふれあいで時間を調整し、同じ体験活動をできるようにした。

【生活体験学校職員】　館長・原・矢野・津山・正平・河中・岩村・椛澤・谷

4. 常葉保育園　～石焼きイモの体験～

【日　　時】　令和２年11月26日(木)
【利用人数】　園児　36名　職員　６名
【移動手段】　配車バスを利用
【タイムスケジュール】

10:00	生活体験学校　到着
10:10	朝のあいさつ・説明 活動 ①　石焼きイモ釜の見学と説明 ②　動物の餌やり ③　落ち葉プール ④　赤玉ねぎの苗植え ⑤　石焼き芋の実食
11:30	昼食
12:00	出発

【活動のポイント】
○　令和元年度に初めて利用し、今回が２年目の利用だったので、多くの活動ができた。短時間でできることを集約し、活動を行う。
○　グループを作り、活動場所ごとに職員を配置し、全体を見る職員の指示で活動を行うようにした。
○　前日にサツマイモを搬入することで、スムーズに石焼きイモができた。

【生活体験学校職員】　館長・原・津山・祝原・河中・岩村・谷

5. 常楽寺保育園　～石焼きイモ・落ち葉プール・ドングリ拾い～

【日　　時】　令和２年11月27日(金)
【利用人数】　園児　22目　職員　３名
【移動手段】　配車バスを利用
【タイムスケジュール】

10:15	生活体験学校　到着
10:20	朝のあいさつ・説明、活動
	①　石焼きイモ釜の見学と説明
	②　動物の餌やり
	③　落ち葉プール
	④　ドングリ拾い
12:00	昼食
12:30	出発

【活動のポイント】
○　園児の動きがスムーズに流れるよう配慮した。
○　初めてドングリ拾いの活動を行い、色々な形や大きさのドングリを拾うことが楽しい様子だった

【生活体験学校職員】　館長・原・津山・岩村

6. ひばり保育園　～ピザ焼き体験～

【日　　時】　令和２年11月20日(金)
【利用人数】　園児　21名　職員　６名
【移動手段】　同じ法人が運営するこども園のバスを利用
【タイムスケジュール】

9:30	生活体験学校　到着
9:50	朝のあいさつ・説明
11:45	活動「ピザ焼き体験」
	・　ピザ生地の成形
	・　トッピング
	(ピザ焼きはじめ)
12:00	昼食　お弁当とピザ
	活動「動物ふれあい・散策」
12:30	片付け
13:00	出発

【活動のポイント】
○　ピザのトッピングは事前に園で切り込みをしてもらい、小分けして園児にそれぞれ配布してもらった。
○　お弁当があったので、ピザのサイズを小さめにし、焼時間に差が出ないようにした。
○　動物のふれあいは、時間調整に有効だった。

【生活体験学校職員】　館長・原・津山・河中・岩村

活動ごとの留意点

ピザ窯を使ってピザを焼かせたいのだが時間はどのくらいかかるのか？
石焼きイモをしたいのだが、どんな準備がいるのか？
落ち葉プールができるそうだが、どんな風に遊ばせるのか？
具体例をお示ししますので参考にしてください。

生活体験学校の野菜は無農薬で作ります。
毎月、専門家の指導を受けながら生産力をあげてきました。合宿事業に参加する児童の食材は、野菜に限って市販のものをほとんど使いません。
野菜と味噌は自家製で間に合う生活体験学校です。

【活動名】動物ふれあい体験

（所 要 時 間）　15 分から 20 分程度
（準備する物）　特になし
（活 動 内 容）

◇ウサギのエサやり

ウサギは 1 羽ずつ手作りのかごに入れてふれあいます。十分に距離を取ることができるので、フィジカルディスタンスが可能になります。また、直接ウサギを触りたい場合は、ウサギ囲いを準備し、囲いの中にウサギを放し、その中でふれあいます。

◇ヤギのエサやり

ヤギは、小屋の横にある広場に放してエサやりを行います。網越しにエサをやるので、安全に行うことができます。

◇動物出前講座

園にウサギやヤギを出前します。ウサギは専用のゲージに入れ、園庭などでふれあうことができます。ヤギは、園庭に杭とロープでつないだ状態でえさやりなどを行います。

（体験可能人数）15 名程度
（注 意 す る 点）

初めの園児がたくさん餌をやると最後のグループの時にはエサを食べなくなります。園児一人が与えるエサの量を少なくしてください。

【活動名】ピザ焼き体験

（所 要 時 間）　生地成型　15 分　トッピング　20 分　焼き上がり　5 分／枚
（準備する物）　生地材料（強力粉、砂糖、塩、ドライイースト）
トッピング（ピーマン・トマト・コーン・ベーコン）
※　材料の分量は事前に打ち合わせが必要

（活 動 内 容）

◇生地の成形

生地は職員が事前に園児の人数や年齢に合わせて用意します。生地は、手で 10 ㎝の丸になるように伸ばしていきます。伸ばした生地は、シートの上に置きます。

◇トッピング

トッピングは、野菜 3 種・肉 I 種を基本としています。あまり山盛りにするとトッピングに火が通る前に生地が焦げてしまうので注意が必要です。
ソース→トッピング→チーズの順番です。

◇焼成

焼く前に、シートに名前が書いてあるかを確認します。引率の先生（1人）が窯の所についてピザの管理をしてください。

（体験可能人数）30 名程度
（注 意 す る 点）食物アレルギーなどに十分気を付けてください。また、手指の消毒など衛生面にも注意を払うようにしてください。

【活動名】農業体験

（所 要 時 間）　植付　30 分から 50 分　収穫　15 分から 30 分
（準備する物）　野菜苗、収穫した野菜を入れるかご、軍手
（活 動 内 容）
　◇野菜の植付体験
　　サツマイモ（6 月）：マルチを張った畝に穴をあけ、差し込むように植えつけます。
　　ジャガイモ（2 月・6 月）：種芋を植えつけます。少人数の園に向いている活動です。
　　玉ねぎ（11 月）：田植えのように玉ねぎの苗を植えつけます。
　◇収穫体験
　　サツマイモ（11-12 月）・ジャガイモ（5 月・10 月）・玉ねぎ（5 月）・落花生（10 月）の収穫ができます。収穫時期は、（　　）の月に収穫可能で、収穫量の 3 分の 2 を持ち帰ることができます。
（体験可能人数）15 名から 80 名程度
（注 意 す る 点）　落花生の収穫は、アレルギーがない事を確認して行う必要があります。
　また、天候などに左右されやすい活動になるので、日程の変更などが起こることを前提に計画を立ててください。

【活動名】落ち葉プール

（所 要 時 間）　15 分から 20 分
（準備する物）　特になし
（活 動 内 容）
　◇落ち葉プール
　　ブルーシートに落ち葉を広げ、その中で遊びます。落ち葉をかけあったり、潜ったり自由に遊ぶことができます。粉々になった落ち葉は畑の土に還します。
（体験可能人数）15 名程度
（注 意 す る 点）　細かく砕けた落ち葉は、洋服や口・目に入る危険性があります。小さくなった落ち葉は投げないこと、大きな落ち葉を放り上げて遊ぶように保育者が一緒に遊びに加わって教えてください。

【活動名】石焼きイモ体験

（所 要 時 間）　焼き上がり　1 時間から 1 時間 30 分
（準備する物）　サツマイモ、アルミホイル、イモを入れる容器
（活 動 内 容）
◇石焼きイモ釜の説明・見学
一人ずつ台の上に乗り、サツマイモが焼ける様子を見学します。
説明はわかりやすく行い、火が燃える様子・サツマイモが焼ける匂い・薪が燃える音を五感で体験してもらいます。
◇石焼きイモ実食
焼きたての石焼き芋を食べます。残した皮は、後でウサギやヤギが食べます。
◇石焼きイモ出前講座
園に職員が出向いて石焼き芋の出前講座を行います。石焼きイモ釜だけの貸し出しもしています。
（体験可能人数）80名～100 名程度
（注 意 す る 点）　実際の火を扱う場面が多いので、園児がやけどをしないように、近づかない・触らない・走らないの徹底をしてください。サツマイモは人数に応じて事前に準備してください。

【活動名】シイタケのコマ打ち体験

（所 要 時 間）　30 分から 50 分程度
（準備する物）　特になし
（活 動 内 容）
◇シイタケのコマ打ち
原木に穴をあける場面を見学して、4 人で 1 本の原木にコマ打ちをします。
コマ打ちをした原木は、園もしくは生活体験学校で保管します。椎茸は 1 年半後に収穫体験を行います。
（体験可能人数）80 名程度
（注 意 す る 点）　原木で収穫できる期間は 3 年から 4 年になるので、収穫が済んだ原木は粉々にし、菜園がある場合は菜園に、樹木がある場合は樹木の根元にまきます。

【活動名】ヒノキのそうめん流し体験

（所 要 時 間）　設置　30 分　　活動　1 時間から 1 時間 30 分
（準備する物）　ヒノキのそうめん流し台　ホース
（活 動 内 容）
◇そうめん流し
場所に応じて、直線型・コの字型・L 字型に設置することができます。設置したら水の勢いを確かめて、そうめんを流してみます。「お椀の中に入っているそうめんを食べてからでないと次のソーメンは取らない」というルールを伝えてください。
（体験可能人数）5 名から 12 名程度
（注 意 す る 点）終わったら流し板をていねいに洗ってください。そうめんが付着したままにしているとカビが生える原因になります。特に流し板の部分は水を流しながらスポンジでていねいに洗うようにしてください。

施設利用申請書　記入例

受付番号　　年度施設　第　　号

令和　△年　○月　○日

特定非営利活動法人
　体験教育研究会ドングリ　様

施設名と代表者名を記入してください。
印鑑は、園の角印をお願いします。

住　　所　福岡県飯塚市○○○

団体及び代表者名

○○○幼稚園　園長　△△△　　印

利用責任者は、打合せなどの担当者をお書きください。連絡先は、必ず連絡が取れる番号の記入を。

電話番号　　1234-56-7890
利用責任者　　庄内　太郎
緊急連絡先　　○○-××××

飯塚市庄内生活体験学校施設利用申請書

飯塚市庄内生活体験学校において、条例に基づき、体験活動を実施したいので、
下記のとおり利用許可を申請します。

利用目的は、対象者・活動内容がわかるように記入ください。また、タイムスケジュールなどがわかる資料を添付ください。

利用目的	（例） ・年長児のサツマイモ掘り体験 ・乳幼児親子のプレイパーク
利用時間	令和△年　○月　○日　（　　曜日）　　時　　分から 令和△年　○月　○日　（　　曜日）　　時　　分まで
利用施設	（例）生活棟、交流センター
利用備品	（例）調理器具、農機具（スコップ）など
利用人員	乳幼児（　　名）小学生（　　名）中学生（　　名）
	高校生（　　名）大学生（　　名）大　人（　　名）
事前打合せ	令和　△年　○月　○日　（　×曜日）　　時　　分

利用時間は、9時30分から17時までです。

【利用上の留意点】

○　施設利用において、来校時と退校時には必ず、事務所に声をかけてください。

○　駐車場に停める台数に制限があります。事前打ち合わせの際に確認し、駐車場に停めることができない場合は、ご相談ください。

○　当施設は、利用料無料です。利用後、使った道具や施設は、清掃を必ず行ってください。

○　生活棟利用時には、各部屋・手洗い場・風呂場などの施錠確認をお願いします。また、台所を使用した場合は、水道の蛇口やガスコンロの元栓の確認もお願いします。

○　当施設利用による傷害については、各利用団体の保険により対応をお願いします。

※　当日施設を利用する前に、実際に利用する人員をお知らせください。

当日利用人員	乳幼児（　　名）小学生（　　名）中学生（　　名）
	高校生（　　名）大学生（　　名）大　人（　　名）

施設利用申請書（バス利用）記入例

受付番号　　年度施設　第　　号

令和　　年　　月　　日

特定非営利活動法人
　体験教育研究会ドングリ　様

住　　所　　福岡県飯塚市〇〇〇

団体及び代表者名

〇〇〇幼稚園　園長　△△△　　印

電話番号　　1234-56-7890

利用責任者　　庄内　太郎

緊急連絡先　　〇〇-××××

飯塚市庄内生活体験学校施設利用申請書

飯塚市庄内生活体験学校において、条例に基づき、体験活動を実施したいので、
下記のとおり利用許可を申請します。

利用目的は、活動を行うことのねらいなどをお書きください。

利用時間は、9時30分から17時までです。

具体的な活動内容をお書きください。

利用目的	（例） サツマイモの実り方など実際に目にし、発見したり、興味や関心を持ち考える機会とする		
利用時間	令和△年　〇月　〇日　（　　曜日）　　時　　分から 令和△年　〇月　〇日　（　　曜日）　　時　　分まで		
利用施設	生活棟、交流センターなど	利用備品	農具（スコップ）など
活動内容	年長児のサツマイモ掘り		
利用人員	幼児（　　名）　※学年　（　　）		
	引率（　　名）		
事前打合せ	令和　△年　〇月　〇日　（　×曜日）　　時　　分		

2回に分ける場合は先発・後発、1回の場合は先発のところにお書きください。

※バス利用に関する特記事項

【行き】　配車時間　　時　　分　　【帰り】

先発	時　　分	（　　名）	先発	時　　分	（　　名）
後発	時　　分	（　　名）	後発	時　　分	（　　名）
引率者氏名			引率者氏名		

※　当日施設を利用する前に、実際に利用する人員をお知らせください。

当日利用人員	幼児（　　名）　※学年　（　　）
	引率（　　名）

【バス利用に関する特記事項】

配車場所の地図
○　バスを停める場所を、○で囲んでお書きください。 ○　グーグルマップなどのインターネットから取得した地図でも可です。

タイムスケジュール
○　園を出発して、到着するまでの時間の流れをお書きください。 ○　活動内容の部分は、詳しくお書きください

体験活動講師依頼　記入例

体験活動派遣依頼書

令和　△ 年　○ 月　○ 日

特定非営利活動法人

体験教育研究会ドングリ　　様

（申請者）

住　　所　福岡県飯塚市○○　123-7

団　体　名　○○保育園

代 表 者 名　園長　△△△

担 当 者 名　庄内　太郎

電 話 番 号　0948-12-3456

印鑑は、園の角印でお願いします。

印

担当者は、打合せなどを行う方です。電話番号は、必ず連絡が取れる番号でお願いします。

下記のとおり体験活動を計画いたしましたので、貴法人職員を派遣くださいますようお願いいたします。

活　動　名	(例) 石焼き芋出前講座
実　施　日	令和　△ 年　○ 月　○ 日（　）　× 時　× 分～　× 時　× 分
実 施 場 所	住 所　福岡県飯塚市○○　123-7
	施設名　○○保育園
実 施 人 数	幼児　　名　小学生　　名　大人　　名　合計　　名
実 施 項 目	(1) 石焼き芋　(2) 椎茸栽培　(3) ヤギ
	(4) そ の 他　（　　）
内　容	

該当するものに○をつけてください。

○ タイムスケジュールをお書きください
○ 具体的な内容（例えば、石焼き芋の場合は、芋の個数など）をお書きください。

※ 派 遣 職 員	氏名	氏名	他　　名

※　受　付　欄	※　経　過　欄

① 内容は、特に重点的に実施したい事をご記入ください。

② ※印の欄は記入しないでください。

職員一覧（令和２年度）

【館　　長】　正平　辰男

【次　　長】　原　　和也

【非常勤支援員】　津山　武咄　　正平　高志　　祝原　政弘

河中　利通　　矢野　隆司　　谷　　義昭　　黒葛原　志保子

【非常勤指導員】　岩村　智賀　　椛澤　美穂　　甲斐　望美

発行責任者　NPO 法人体験教育研究会ドングリ

2021年2月発行
住　所　〒820-0111 福岡県飯塚市有安958番地１
電　話　0948-82-3188　FAX 0948-82-2780
E-mail　taiken.sch@oks.or.jp
H　P　http://www.oks.or.jp/~taiken.sch/